

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org

皆さん、こんにちは。日泰寺参道も秋真つ盛りです。今日もきつと、焼き栗などの秋の味覚が露店に並んでいることと思います。

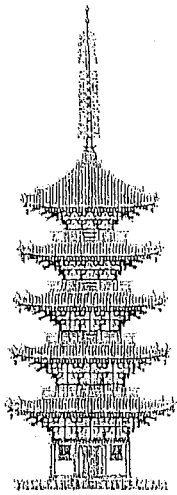
今年の弘法さんかわら版では「巡礼」にまつわるお話をお伝えしています。今月の話題は、**蜂須賀小六**と弘法大師のちよつと意外な関係です。

★初代阿波藩主、蜂須賀小六

蜂須賀小六のことは、読者の皆さんもよくご存知のことと思います。**海部郡美和町**の出身で、あの**豊臣秀吉**の家臣です。

小六は、秀吉の**四国遠征**で大変な戦功を挙げ、後に**阿波藩**(徳島県)の**初代藩主**となりました。阿波と言えば、四国巡礼のスタート地点です。

さて、この「蜂須賀」という名前は、実は弘法大師と深い関係があるようです。



★蜂須賀弘法



蜂須賀小六肖像画

全国を旅していた弘法大師が、**宮の宿**(今の**熱田神宮**辺り)を訪れた際に、「北の方の小高い丘が荒らされている。寺を建てて鎮めよ」との**天のお告げ**を聞いたそうです。お告げに従って出向いた場所が、今の海部郡美和町界隈の丘の上。そこには、大きな蜂の大量がブンブンと飛び回り、村人たちを困らせていました。

弘法大師が何日もかけて災厄退散を祈った甲斐あって、蜂はどこかへ飛んでいったそうです。弘法大師は蜂の巣のあった場所に寺を建て、**蓮華寺**と命名しました。以来、この地は「**蜂塚**」と呼ばれるようになり、のちの「**蜂須賀**」という名前の語源となりました。蜂須賀家は蓮華寺を菩提寺とし、蓮花寺は別名「**蜂須賀弘法**」と言われています。

★弘法大師への「恩返し」

さて、蜂須賀小六が初代藩主となった阿波の国にもたくさんの札所がありました。

そのうちのひとつ、第六十六番札所は**巨摩山雲辺寺(きよこうさんうんぺんじ)**。その名の通り、巨鼈(大きな亀)のような山の上であり、霊場の中で最も標高(九百二十七メートル)が高く、雲海の中にあるお寺です。

雲辺寺は学問が大変盛んだったために、学問の中心と言われた高野山になぞらえて**四国高野**とも呼ばれていました。

この雲辺寺、戦乱によって荒れ果てていましたが、蜂須賀小六とその子孫は、寺を再興し、祈願所としました。蜂須賀一族は、時間と空間を越えて**弘法大師への「恩返し」**をしたということですね。

なお、雲辺寺は巡礼の順序により讃岐の札所になっていますが、所在地は阿波の国になります。

★覚王山の雲辺寺

日本最小の覚王山八十八箇所霊場の雲辺寺の「写し」は、**日泰寺奉安塔**の裏手にあります。この奉安塔と**大書院鳳凰台**が**十月三十一日に公開**されます。ご興味のある方は、雲辺寺の見学もかねて、お出かけになってはいかがでしょうか。

★「弘法さんを語る会」開催!

さて、先月号でもお知らせしましたが、編集部では来る**十二月十四日(火)**、「弘法さんを語る会」を開催させていただきます。**第一回のテーマ**は「弘法大師の生涯」、場所は日泰寺西側の**庭園ギャラリー「いち倫」**、定員**二十人**です。ご興味のある方は、是非ご参加ください。お申し込みをお待ちしております。

また、**名古屋市博物館**では、**十一月三日まで**、高野山を含む**紀伊山地三参詣道(世界遺産)**の**特別展「祈りの道」**も開催されています。イベント一杯の秋ですね。

第1回「弘法さんを語る会」～弘法大師の生涯～
ご案内役：大塚耕平(弘法さんかわら版執筆者)
日時：12月14日(火)午後1時～3時
場所：庭園ギャラリー「いち倫」(日泰寺西側)
定員：20人(お申し込みは大塚耕平事務所まで757-1955)
会費：500円(お茶代)